

受益者の皆さまへ

岡三アセットマネジメント株式会社

「欧州ハイ・イールド債券オープン（毎月決算型）円コース／ユーロコース」  
 「欧州ハイ・イールド債券オープン（1年決算型）円コース」  
 「欧州ハイ・イールド債券オープン（1年決算型）ユーロコース」  
 運用報告書における訂正とお詫び

謹啓 時下ますますご隆盛のこととお慶び申し上げます。

平素は格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、弊社が設定・運用しております「欧州ハイ・イールド債券オープン（毎月決算型）円コース／ユーロコース」、「欧州ハイ・イールド債券オープン（1年決算型）円コース」、「欧州ハイ・イールド債券オープン（1年決算型）ユーロコース」の交付運用報告書および運用報告書（全体版）（2019年1月18日現在）における運用経過の「基準価額の主な変動要因」におきまして、下記の通り、誤りがございましたので、お詫びして訂正いたします。

受益者の皆さまにおかれましては、引き続き弊社投資信託をお引き立て賜りますよう宜しくお願い申し上げます。

謹白

記

正	誤
○基準価額の主な変動要因 （略） （主なマイナス要因） ・ 米中の貿易摩擦問題の継続やイギリスの欧州連合（EU）離脱交渉等が材料視され、リスク回避的な動きが市場で広がり、欧州ハイ・イールド社債市場から資金が流出したことがマイナスに影響しました。 （略）	○基準価額の主な変動要因 （略） （主なマイナス要因） ・ 米中の貿易摩擦問題の継続やイギリスの欧州連合（EU）離脱交渉等が材料視され、リスク回避的な動きが市場で広がり、欧州ハイ・イールド社債市場から資金が流入したことがマイナスに影響しました。 （略）

以上

お問い合わせ先

岡三アセットマネジメント株式会社 クライアント・サービス部  
 フリーダイヤル 0120-048-214（受付時間：営業日の午前9時～午後5時）

## 受益者の皆様へ

毎々、格別のご愛顧にあずかり厚くお礼申し上げます。

さて、「欧州ハイ・イールド債券オープン（1年決算型）ユーロコース」は、このたび、第1期の決算を行いました。

当ファンドは、投資信託証券への投資を通じて、実質的にユーロ建て高利回り社債等に投資し、安定した収益の確保と投資信託財産の成長を目指して運用を行いました。

ここに、当作成対象期間の運用経過等についてご報告申し上げます。

今後とも一層のお引立てを賜りますよう、お願い申し上げます。

# 欧州ハイ・イールド債券 オープン（1年決算型） ユーロコース

追加型投信／海外／債券

作成対象期間：2018年3月28日～2019年1月18日

## 交付運用報告書

第1期（決算日 2019年1月18日）

第1期末(2019年1月18日)	
基準価額	8,999円
純資産総額	461百万円
第1期	
騰落率	△10.0%
分配金(税引前)合計	0円

(注) 騰落率は分配金(税引前)を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、小数点以下第2位を四捨五入して表示しております。

(注) 純資産総額の単位未満は切捨てて表示しております。

- 交付運用報告書は、運用報告書に記載すべき事項のうち重要なものを記載した書面です。その他の内容については、運用報告書（全体版）に記載しております。
- 当ファンドは、投資信託約款において運用報告書（全体版）に記載すべき事項を、電磁的方法によりご提供する旨を定めております。運用報告書（全体版）は、岡三アセットマネジメントのホームページにて閲覧・ダウンロードいただけます。
- 運用報告書（全体版）は、受益者の方からのご請求により交付されます。交付をご請求される方は、販売会社までお問い合わせください。

<運用報告書（全体版）の閲覧・ダウンロード方法>  
ホームページのファンド情報から当ファンドのファンド名称を検索することにより、運用報告書（全体版）を閲覧およびダウンロードすることができます。

 **岡三アセットマネジメント**  
〒104-0031 東京都中央区京橋2-2-1

お問い合わせは弊社クライアント・サービス部へ  
フリーダイヤル ☎ 0120-048-214（営業日の9:00～17:00）

[ホームページ]

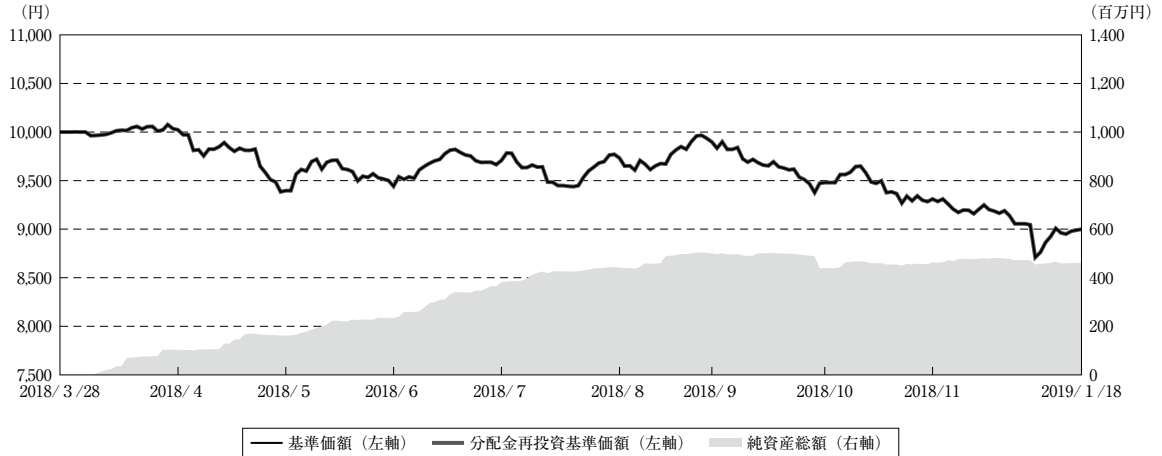
<https://www.okasan-am.jp>

※アクセスにかかる通信料はお客様の負担となります。

## 運用経過

### 期中の基準価額等の推移

（2018年3月28日～2019年1月18日）



設定日：10,000円

期 末：8,999円（既払分配金（税引前）：0円）

騰落率：△10.0%（分配金再投資ベース）

- (注) 分配金再投資基準価額は、分配金（税引前）を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。
- (注) 分配金を再投資するかどうかについてはお客様がご利用のコースにより異なります。また、ファンドの購入価額により課税条件も異なります。したがって、お客様の損益の状況を示すものではありません。
- (注) 分配金再投資基準価額は、設定日（2018年3月28日）の値が基準価額と同一となるように指数化しております。
- (注) 上記騰落率は、小数点以下第2位を四捨五入して表示しております。
- (注) 設定日の基準価額は設定当初の金額、純資産総額は設定当初の元本額を表示しております。（以下同じ。）

#### ○基準価額の主な変動要因

主要投資対象である「DWS ユーロ・ハイ・イールド・ボンド・マスター・ファンド（ユーロ）」における主なプラス要因およびマイナス要因は以下の通りです。

##### （主なプラス要因）

- ・保有債券の高水準な利息収入の獲得がプラスに寄与しました。

##### （主なマイナス要因）

- ・米中の貿易摩擦問題の継続やイギリスの欧州連合（EU）離脱交渉等が材料視され、リスク回避的な動きが市場で広がり、欧州ハイ・イールド社債市場から資金が流入したことがマイナスに影響しました。
- ・原油価格の下落や主要国の経済指標の下振れ等も、マイナスに影響しました。
- ・銘柄選択効果がマイナスに影響しました。
- ・為替市場において、ユーロが対円で下落したことがマイナスに影響しました。

1万口当たりの費用明細

(2018年3月28日～2019年1月18日)

項目	当期		項目の概要
	金額	比率	
(a) 信託報酬 (投信会社) (販売会社) (受託会社)	円 78 (34) (42) (3)	% 0.817 (0.352) (0.439) (0.026)	(a) 信託報酬 = 期中の平均基準価額 × 信託報酬率 委託した資金の運用の対価 交付運用報告書等各種書類の送付、口座内でのファンドの管理、購入後の情報提供等の対価 運用財産の管理、投信会社からの指図の実行の対価
(b) その他費用 (監査費用) (その他)	1 (1) (0)	0.011 (0.011) (0.000)	(b) その他費用 = 期中のその他費用 ÷ 期中の平均受益権口数 監査費用は、監査法人等に支払うファンドの監査に係る費用 その他は、金銭信託支払手数料
合計	79	0.828	
期中の平均基準価額は、9,603円です。			

(注) 期中の費用（消費税等のかかるものは消費税等を含む）は、追加・解約により受益権口数に変動があるため、簡便法により算出した結果です。

(注) 各金額において基準価額は円未満切捨て、その他は各項目ごとに円未満は四捨五入してあります。

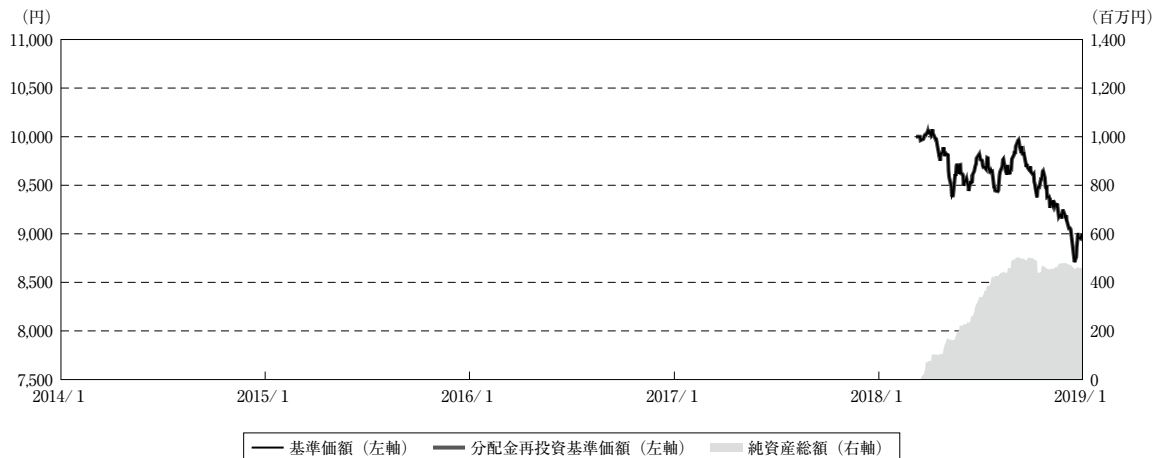
(注) その他費用は、このファンドが組み入れているマザーファンドが支払った金額のうち、このファンドに対応するものを含みます。

(注) 各項目の費用は、このファンドが組み入れている投資信託証券（マザーファンドを除く。）が支払った費用を含みません。

(注) 各比率は1万口当たりのそれぞれの費用金額（円未満の端数を含む）を期中の平均基準価額で除して100を乗じたもので、項目ごとに小数第3位未満は四捨五入してあります。

最近5年間の基準価額等の推移

（2014年1月20日～2019年1月18日）



- (注) 分配金再投資基準価額は、分配金（税引前）を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。
- (注) 分配金を再投資するかどうかについてはお客様がご利用のコースにより異なります。また、ファンドの購入価額により課税条件も異なります。したがって、お客様の損益の状況を示すものではありません。
- (注) 分配金再投資基準価額は、設定日（2018年3月28日）の値が基準価額と同一となるように指数化しております。

		2018年3月28日 設定日	2019年1月18日 決算日
基準価額	(円)	10,000	8,999
期間分配金合計(税引前)	(円)	—	0
分配金再投資基準価額騰落率	(%)	—	△10.0
純資産総額	(百万円)	1	461

- (注) 上記騰落率は、小数点以下第2位を四捨五入して表示しております。
- (注) 純資産総額の単位未満は切捨てて表示しております。
- (注) 騰落率は1年前の決算応当日との比較です。  
ただし、設定日の基準価額は設定当初の金額、純資産総額は設定当初の元本額を表示しており、2019年1月18日の騰落率は設定当初との比較です。
- (注) 当ファンドは、特定の指数を上回るまたは連動する成果を目指した運用を行っておりません。そのため、特定のベンチマークおよび参考指数を設けておりません。

**投資環境**

(2018年3月28日～2019年1月18日)

**<ユーロ圏の国債市場>**

欧州債券市場の主要指標となるドイツの10年国債利回り（以下、長期金利）は低下しました（価格は上昇）。米中貿易摩擦問題に対する懸念の高まりや、欧州の政治リスクが残存したことに加えて、世界的に株式市場が下落基調となるなど、リスク回避的な動きが広がったことを受けて、長期金利は低下しました。

**<欧州ハイ・イールド社債市場>**

欧州ハイ・イールド社債市場は、国際貿易環境の不透明感や、世界景気の減速懸念を背景とした、リスク回避的な動きの強まりを受けて、国債との利回り差（スプレッド）が拡大しました。相対的に高い利回りに対する投資家需要を受けた資金流入や、高い利息収入は相場を下支えました。

**<為替市場>**

為替市場は、欧州中央銀行（ECB）による緩和的な金融政策は継続した一方で、各国の通商政策動向や、主要国における景気指標の鈍化傾向等が市場の懸念材料となり、安全資産としての円買いが優勢となったことから、ユーロが対円で軟調に推移しました。

**<国内短期金融市場>**

国内短期金融市場は、日銀が「長短金利操作付き量的・質的金融緩和」を続ける中、1年国債利回りがマイナス圏で推移しました。

**当ファンドのポートフォリオ**

(2018年3月28日～2019年1月18日)

**<欧州ハイ・イールド債券オープン（1年決算型）ユーロコース>**

「DWS ユーロ・ハイ・イールド・ボンド・マスター・ファンド（ユーロ）」と「マネー・リクイディティ・マザーファンド」の各投資信託証券を主要投資対象とし、「DWS ユーロ・ハイ・イールド・ボンド・マスター・ファンド（ユーロ）」につきましては、組入比率を高位に維持しました。

**○DWS ユーロ・ハイ・イールド・ボンド・マスター・ファンド（ユーロ）**

国別の運用状況につきましては、経済回復の相対的に堅調な国の企業を中心に組入れを行いました。セクター別では、グローバルに展開する企業の多い素材セクターのほか、ディフェンシブ性の高い電気通信サービスやメディアなどのセクターを引き続き高めの配分としました。景気循環の影響を受けやすい自動車や小売セクターへの配分は抑えました。格付け別では、相対的に割安感が見られるB格の債券を市場割合に対して多めに組み入れました。相場が弱含んだ局面では割安感の出た既発債を購入した一方、相場の上昇局面においては一部で利益を確定するなどの売却を行い、新発債の購入等も実施しました。

**○マネー・リクイディティ・マザーファンド**

わが国の公社債および短期金融商品を主要投資対象とした運用を行いました。当期間中は、政府保証債の組入れを行いました。

**当ファンドのベンチマークとの差異**

(2018年3月28日～2019年1月18日)

当ファンドはベンチマークおよび参考指数がないため、本項目は記載していません。

**分配金**

(2018年3月28日～2019年1月18日)

分配金額は、委託会社が分配可能額、基準価額水準等を勘案のうえ決定します。当期間におきましては、委託会社の判断により分配を行いませんでした。なお、収益分配に充てなかった留保益につきましては、運用の基本方針と同一の運用を行ってまいります。

(単位：円、1万口当たり・税引前)

項目	第1期
	2018年3月28日～ 2019年1月18日
当期分配金 (対基準価額比率)	－ －%
当期の収益	－
当期の収益以外	－
翌期繰越分配対象額	641

(注) 対基準価額比率は当期分配金（税引前）の期末基準価額（分配金込み）に対する比率であり、ファンドの収益率とは異なります。

(注) 当期の収益、当期の収益以外は小数点以下切捨てで算出しているため合計が当期分配金と一致しない場合があります。

## 今後の運用方針

### <欧州ハイ・イールド債券オープン（1年決算型）ユーロコース>

「DWS ユーロ・ハイ・イールド・ボンド・マスター・ファンド（ユーロ）」と「マネー・リクイディティ・マザーファンド」の各投資信託証券を主要投資対象とし、「DWS ユーロ・ハイ・イールド・ボンド・マスター・ファンド（ユーロ）」につきましては、組入比率を高位に保つことを基本とします。

### ○DWS ユーロ・ハイ・イールド・ボンド・マスター・ファンド（ユーロ）

#### （投資環境の見通し）

世界景気の先行き不透明感が増す中、ユーロ圏域内の物価上昇率の伸びは引き続き緩やかであり、目先もECBによる低金利環境の継続姿勢は変わらないものと想定しています。また、イギリスのEU離脱に関連した動向や、ユーロ圏域内の政治リスク等は、緩やかな景気回復に伴う金利上昇の抑制要因になると考えています。

欧州ハイ・イールド社債市場については、企業業績や財務状況が概ね良好な点を踏まえ、相対的な利回りの高さに対する投資家需要を背景に、市場への資金流入が見込まれることなどは、プラス材料と考えています。ECBによる金融緩和姿勢の継続も市場の下支え要因と考えており、割安度が増した局面では投資機会として捉えていきます。

為替市場では、日銀による金融緩和策の継続やECBによる金融正常化姿勢等を背景に、中長期的にはユーロ高円安の流れが進むものと見ています。短期的には、各国通商政策や政治リスク、世界景気動向等を背景としたリスク回避的な動きなどが、円高要因として考えられます。

#### （運用方針）

欧州域内における内需の堅調推移や景気への感応度を考慮し、素材やサービスなどのセクター配分を嗜好する一方、割高感のある小売や自動車セクターへの配分は抑える予定です。格付け別では、相対的に割安感が見られるB格以下の債券を中心に組み入れる方針です。

### ○マネー・リクイディティ・マザーファンド

#### （投資環境の見通し）

国内短期金融市場は、日銀によるマイナス金利政策の継続が見込まれることから、主要な投資対象であるわが国の公社債および短期金融商品の利回りがマイナス圏での推移となり、今後も厳しい運用環境が続くと予想されます。

#### （運用方針）

わが国の公社債および短期金融商品を主要投資対象とし、安定した収益確保を目的に運用を行います。



## お知らせ

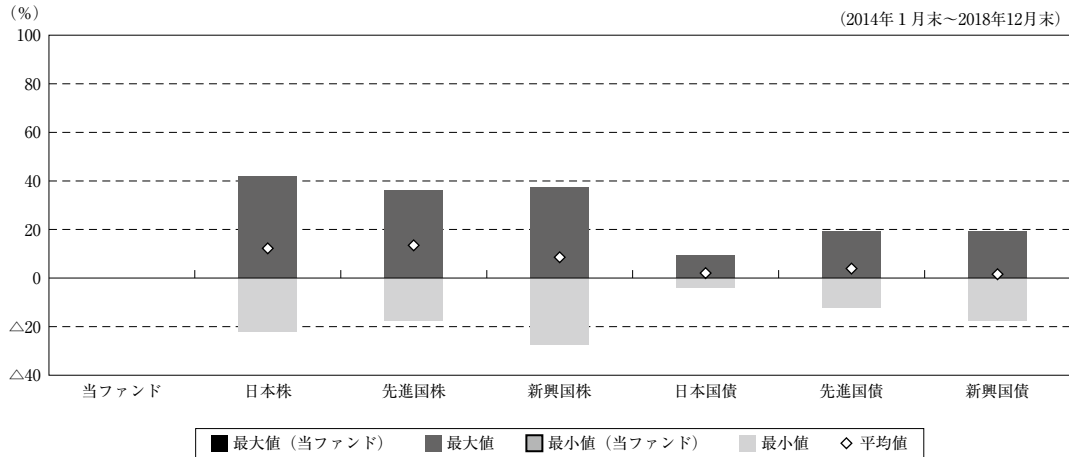
該当事項はございません。

## 当ファンドの概要

商品分類	追加型投信／海外／債券	
信託期間	2018年3月28日から2028年1月18日までです。	
運用方針	投資信託証券への投資を通じて、実質的にユーロ建て高利回り社債等に投資し、安定した収益の確保と投資信託財産の成長を目指して運用を行います。	
主要投資対象	当ファンド	・DWS ユーロ・ハイ・イールド・ボンド・マスター・ファンド（ユーロ） ・マネー・リクイディティ・マザーファンド
	DWS ユーロ・ハイ・イールド・ボンド・マスター・ファンド（ユーロ）	ユーロ建ての高利回り社債等 ※ユーロ建て資産については、為替ヘッジを行いません。
	マネー・リクイディティ・マザーファンド	わが国の公社債および短期金融商品を主要投資対象とします。
運用方法	DWS ユーロ・ハイ・イールド・ボンド・マスター・ファンドへの投資を通じて、主に欧州諸国のユーロ建てのハイ・イールド債券等に投資し、高水準のインカム・ゲインの獲得とファンド資産の中長期的な成長を目指します。ユーロ建て以外の資産へ投資を行う場合は、当該ユーロ以外の通貨売り、ユーロ買いの為替取引を行うことを原則とします。	
分配方針	毎年1月18日（休業日の場合は翌営業日）に決算を行い、原則として、以下の方針に基づき、収益分配を行います。 分配対象収益の範囲は、繰越分を含めた経費控除後の配当等収益と売買益（評価益を含みます。）等の全額とします。 繰越分を含めた配当等収益には、マザーファンドの配当等収益のうち、投資信託財産に帰属すべき配当等収益を含むものとします。 分配金額は、委託会社が分配可能額、基準価額水準等を勘案のうえ決定します。分配可能額が少額の場合や基準価額水準によっては、収益分配を行わないことがあります。	

(参考情報)

○当ファンドと代表的な資産クラスとの騰落率の比較



(単位：%)

	当ファンド	日本株	先進国株	新興国株	日本国債	先進国債	新興国債
最大値	-	41.9	36.2	37.2	9.3	19.3	19.3
最小値	-	△22.0	△17.5	△27.4	△4.0	△12.3	△17.4
平均値	-	12.2	13.4	8.5	2.0	3.8	1.5

(注) 全ての資産クラスが当ファンドの投資対象とは限りません。

(注) 2014年1月から2018年12月の5年間の各月末における直近1年間の騰落率の最大値・最小値・平均値を表示したものです。なお、当ファンドにつきましては、運用期間が1年未満であるため掲載しておりません。

(注) 上記の騰落率は決算日に対応した数値とは異なります。

《各資産クラスの指数》

日本株：東証株価指数 (TOPIX) (配当込み)

先進国株：MSCI-KOKUSAI インデックス (配当込み、円ベース)

新興国株：MSCIエマージング・マーケット・インデックス (配当込み、円ベース)

日本国債：NOMURA-BPI国債

先進国債：FTSE世界国債インデックス (除く日本、円ベース)

新興国債：JPモルガン・ガバメント・ボンド・インデックス-エマージング・マーケット・グローバル・ディバシファイド (円ベース)

※各指数についての説明は、最終ページの「代表的な資産クラスとの騰落率の比較に用いた指数について」をご参照ください。

(注) 海外の指数は、為替ヘッジなしによる投資を想定して、円換算しております。

## 当ファンドのデータ

### 組入資産の内容

(2019年1月18日現在)

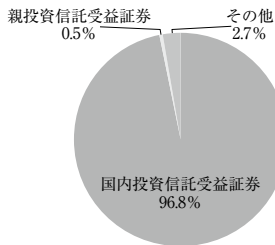
#### ○組入上位ファンド

銘柄名	第1期末
	%
DWS ユーロ・ハイ・イールド・ボンド・マスター・ファンド(ユーロ)	96.8
マネー・リクイディティ・マザーファンド	0.5
組入銘柄数	2銘柄

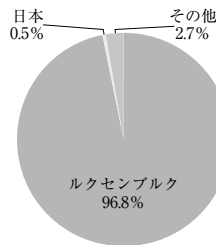
(注) 比率は当ファンドの純資産総額に対する割合です。

(注) 組入全銘柄に関する詳細な情報等につきましては、運用報告書（全体版）に記載しております。

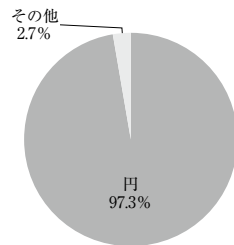
#### ○資産別配分



#### ○国別配分



#### ○通貨別配分



(注) 比率は当ファンドの純資産総額に対する割合です。資産の状況等によっては100%超となる場合があります。

(注) 国別配分につきましては発行国を表示しております。

### 純資産等

項目	第1期末
	2019年1月18日
純資産総額	461,452,065円
受益権総口数	512,801,966口
1万円当たり基準価額	8,999円

(注) 当初設定元本額は1,000,000円、期中における追加設定元本額は585,237,184円、同解約元本額は73,435,218円です。

## 組入上位ファンドの概要

### DWS ユーロ・ハイ・イールド・ボンド・マスター・ファンド（ユーロ）

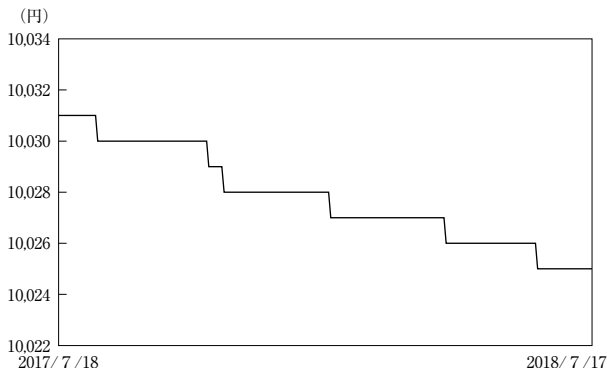
当ファンドの計算期間中において、投資対象ファンドである「DWS ユーロ・ハイ・イールド・ボンド・マスター・ファンド（ユーロ）」の直近の情報がないため開示しておりません。

※「ドイチェ・アセット・マネジメント・インベストメント GmbH」は、2018年9月1日より「DWS インベストメント GmbH」に商号変更となりました。

## 組入上位ファンドの概要

### マネー・リクイディティ・マザーファンド

#### 【基準価額の推移】



#### 【1万口当たりの費用明細】

(2017年7月19日～2018年7月17日)

項目	当期	
	金額	比率
	円	%
(a) その他費用 (その他)	0 (0)	0.001 (0.001)
合計	0	0.001

期中の平均基準価額は、10,027円です。

(注) 上記項目の概要につきましては、運用報告書（全体版）をご参照ください。  
 (注) 各金額において基準価額は円未満切捨て、その他は各項目ごとに円未満は四捨五入してあります。  
 (注) 各比率は1万口当たりのそれぞれの費用金額（円未満の端数を含む）を期中の平均基準価額で除して100を乗じたもので、項目ごとに小数第3位未満は四捨五入してあります。

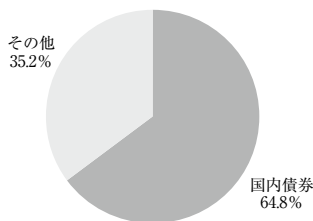
#### 【組入上位10銘柄】

(2018年7月17日現在)

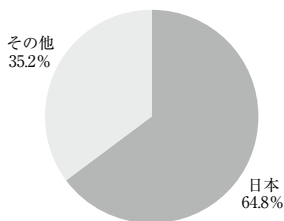
	銘柄名	業種/種別等	通貨	国(地域)	比率
					%
1	第2回政府保証株式会社日本政策投資銀行社債	特殊債券	円	日本	32.4
2	第67回政府保証日本高速道路保有・債務返済機構債券	特殊債券	円	日本	32.4
3	—	—	—	—	—
4	—	—	—	—	—
5	—	—	—	—	—
6	—	—	—	—	—
7	—	—	—	—	—
8	—	—	—	—	—
9	—	—	—	—	—
10	—	—	—	—	—
	組入銘柄数			2銘柄	

(注) 比率は当ファンドの純資産総額に対する割合です。  
 (注) 組入全銘柄に関する詳細な情報等につきましては、運用報告書（全体版）に記載しております。  
 (注) 国（地域）につきましては発行国を表示しております。

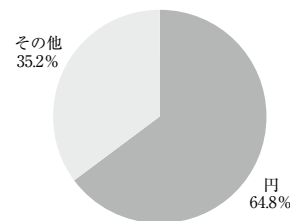
#### 【資産別配分】



#### 【国別配分】



#### 【通貨別配分】



(注) 比率は当ファンドの純資産総額に対する割合です。資産の状況等によっては100%超となる場合があります。  
 (注) 国別配分につきましては発行国を表示しております。

当マザーファンドの計算期間における運用経過の説明は、運用報告書（全体版）をご覧ください。

### <代表的な資産クラスとの騰落率の比較に用いた指数について>

騰落率は、データソースが提供する各指数をもとに株式会社野村総合研究所が計算しており、その内容について、信憑性、正確性、完全性、最新性、網羅性、適時性を含む一切の保証を行いません。また、当該騰落率に関連して資産運用または投資判断をした結果生じた損害等、当該騰落率の利用に起因する損害及び一切の問題について、何らの責任も負いません。

#### ○東証株価指数（TOPIX）（配当込み）

東証株価指数（TOPIX）（配当込み）は、東京証券取引所第一部に上場している国内普通株式全銘柄を対象として算出した指数で、配当を考慮したものです。なお、TOPIXに関する著作権、知的財産権その他一切の権利は東京証券取引所に帰属します。

#### ○MSCI-KOKUSAI インデックス（配当込み、円ベース）

MSCI-KOKUSAI インデックス（配当込み、円ベース）は、MSCI Inc.が開発した、日本を除く世界の先進国の株式を対象として算出した指数で、配当を考慮したものです。なお、MSCI Indexに関する著作権、知的財産権その他一切の権利は、MSCI Inc.に帰属します。

#### ○MSCIエマージング・マーケット・インデックス（配当込み、円ベース）

MSCIエマージング・マーケット・インデックス（配当込み、円ベース）は、MSCI Inc.が開発した、世界の新興国の株式を対象として算出した指数で、配当を考慮したものです。なお、MSCI Indexに関する著作権、知的財産権その他一切の権利は、MSCI Inc.に帰属します。

#### ○NOMURA-BPI国債

NOMURA-BPI国債は、野村證券株式会社が発表している日本の国債市場の動向を的確に表すために開発された投資収益指数です。なお、NOMURA-BPI国債に関する著作権、商標権、知的財産権その他一切の権利は、野村證券株式会社に帰属します。

#### ○FTSE世界国債インデックス（除く日本、円ベース）

FTSE世界国債インデックス（除く日本、円ベース）は、FTSE Fixed Income LLCにより運営され、日本を除く世界主要国の国債の総合収益率を各市場の時価総額で加重平均した指数です。なお、FTSE世界国債インデックスに関する著作権等の知的財産その他一切の権利は、FTSE Fixed Income LLCに帰属します。

#### ○JPモルガン・ガバメント・ボンド・インデックスーエマージング・マーケット・グローバル・ディバースファイド（円ベース）

JPモルガン・ガバメント・ボンド・インデックスーエマージング・マーケット・グローバル・ディバースファイド（円ベース）は、J.P. Morgan Securities LLCが算出、公表している、新興国が発行する現地通貨建て国債を対象にした指数です。なお、JPモルガン・ガバメント・ボンド・インデックスーエマージング・マーケット・グローバル・ディバースファイドに関する著作権、知的財産権その他一切の権利は、J.P. Morgan Securities LLCに帰属します。